

未来^眼とうほく 第23回

食文化創造都市鶴岡を舞台に、地方創生に取り組む

鶴岡市は、2005年10月に旧鶴岡市と4町1村が合併することにより発足し、10周年を迎えた。面積は1,311km²で市域として東北地方最大である。沿岸部、平野部、中山間部と地形は変化に富んでおり、また、城下町の風情を残す中心市街、出羽三山他の宗教史跡、黒川能をはじめとする民俗文化、藤沢周平文学など、さまざまな歴史、文化に恵まれている。

農林水産物も豊かで、2014年に「ユネスコ食文化創造都市」に認定された。そして「食文化創造都市鶴岡」として2015年10月にミラノ万博に出展し、豊かな食文化、精神文化を世界にむけて発信した。

榎本市長は、2009年10月に就任以来、「鶴岡ルネサンス宣言」を政策方針に掲げている。市民を中心とした「再生」（ルネサンス）が重要であり、市民・地域・行政の協調、協力を市政のエンジンとして持続可能で希望あふれる鶴岡市をつくることを目標としたものである。また、国の地方創生戦略をうけ、2015年10月には「鶴岡市まち・ひと・しごと創生総合戦略」を公表した。

今回は、食文化をキーワードとする農林水産業や観光の振興、バイオ関連産業の集積などによる雇用の確保、若い世代も安心して暮らせるまちづくりなど、幅広くお話をお伺いした。

鶴岡は多様性が魅力

●町田 合併により新しい鶴岡市が発足して10年となりますが、個性的な地域からなる広大な市域をまとめられるには、大変なご苦労があったことと思います。

●榎本 市域としては、東北地方最大で、全国でも7番目です。1市4町1村の全く個性の異なる市町村がまとまったわけですが、旧鶴岡市が前に出過ぎないことが良かったと

思っています。各地域の持つ資源をうまく活用するなど、住民を含めて個性を大事にしてきたことで、市としての一体感がはぐくまれてきたと感じます。

例えば、藤島地区の農業試験場から「つや姫」が生まれました。羽黒地区の出羽三山は鶴岡のみならず山形の大きな観光資源となっており、櫛引地区は黒川能、果樹で今まで以上に情報発信が多くなっています。朝日地区は、磐梯朝日国立公園を含む自然景観に優れ、温海地区は西の玄関口としての機能を持っています。

そして各地域の特性を酒井家の藩校致道館の教育をバックボーンとして持つ鶴岡が、明治期の政治家で漢学者の副島種臣が「沈潜の風」と評した鶴岡人気質でまとめてきたということではないでしょうか。

●町田 地方創生は、それぞれの地域の個性をどう生かしていくかが極めて重要です。おっしゃられたように各地域の特徴、個性を最大限生かしていくのだというお考えには大変共鳴いたします。

●榎本 各地域の庁舎も集中すべきものは集中するとしても、むやみに縮小するのではなく、地域・産業振興の企画、実施は市民のみなさんの知恵を借りながら、それぞれの庁舎で工夫し、知恵を出すようにしています。



町田 睿（まちだ・さとる）

1938年秋田県生まれ。東京大学法学部卒業後、富士銀行に入行。同行取締役総合企画部長、常務取締役を経て、1994年荘内銀行取締役副頭取、95年取締役頭取、2008年取締役会議長を歴任。09年10月よりフィデアホールディングス取締役会議長、北都銀行取締役会長、11年6月より荘内銀行取締役相談役、12年6月よりフィデア総合研究所理事長をそれぞれ務める。12年4月より2年間、東北公益文科大学の学長を務め、14年10月に同大名誉教授の称号を授けられた。



榎本 政規（えのもと・まさき）

1973年中央大学経済学部卒。1991年鶴岡市議会議員当選。2003年鶴岡市議会第30代議長就任。2009年鶴岡市（新）第2代市長に就任。改選をへて現職。

●町田 同感です。私は15年間鶴岡に住んでいましたが、たくさんの良い材料を持っていると強く感じましたから、地方が自立的、主体的に自分たちでやっていくという精神が浸透すれば、それだけで地方創生戦略も半分以上は成功したことになるのではないかと思います。

●榎本 6年前の市長就任にあたり、政策理念をどうするかいろいろと考えましたが、結局、市民の力を生かし、地域の力を生かすことが第一との結論に至りました。地域・市民こそが主体であり、行政は持っているノウハウを活用してバックアップしていく体制をとらないといけないと考え、「鶴岡ルネサンス宣言」をつくった次第です。

「食文化創造都市鶴岡」を世界に発信

●町田 去る10月に、ミラノ万博に鶴岡市として出展し、市長ご自身が食文化を世界にむけ発信されたこと伺っています。

●榎本 市として単独で出展したのは、当市と新潟市などごく少数と聞いています。新潟市との間には日本海に沿った食文化にかかわる観光ロードの構想があり、それぞれ出展することになりました。

さきほどの「鶴岡ルネサンス宣言」には市が目指すべき5つの文化都市構想がありますが、その一つが「創造文化都市」です。いろいろな方の意見を伺ううちに、ユネスコに「創造都市ネットワーク」というプロジェクトがあり、文学、音楽など7つの分野のなかに食文化があるということを知りました。そこで、ユネスコから「食文化創造都市鶴岡」としての認定を受け、当市の豊かな食文化を世界に発信しようというこ

とにしました。

また、認定申請を行っている途中で、農林水産省からミラノ万博へ出展したらどうかというお誘いを受け出展することになりましたが、正式に出展を決めて半年後に、ユネスコから認定を受けました。創造都市認定とミラノ万博出展とがうまくマッチングしました。

●町田 食文化創造都市というのは大変良い着眼です。それらを通じて鶴岡の食をアピールされていることはすばらしいことだと思います。インバウンド観光が全国的にブームとなっていますが、食の魅力は大きなウエートを占めていると思います。ミラノでの来場客の反応はいかがでしたか。

●榎本 ミラノでは、“King of Edamame（枝豆の王様）”である「だだちゃ豆」および、ユネスコからも高い評価を受けた出羽三山の「精進料理」とその背景にある精神文化の発信をテーマとしました。来場いただいたお客さまの数は、出展先のなかでトップクラスとのことでした。

山伏3人と巫女さん2人に入り口に立ってもらい、山伏の方にはほら貝を吹いてもらいました。欧州の人達は文化に対する興味が高く、いろいろな質問もあり、また、写真を撮らせてほしいとの希望も多く、集客のうえで効果的でした。巫女さんの1人は、高校生として当地に留学し、出羽三山で巫女修行をしたこともあるハンガリー人で、今回の出展に母国から手弁当で駆けつけてくれました。

地元の資源を生かした観光振興

●町田 欧州の方々は、精神文化、宗教文化への関心が高いというお話ですが、その通りだと思います。出羽三山の神道、そのもととなるアニミズム、善寶寺の禅を含めた仏教、致道館教育の中核をなす儒学、この3つの融合が庄内・鶴岡の精神文化であり、欧州の方は大いに関心をもたれるのではないのでしょうか。2020年にむけてインバウンド観光が盛り上がると思いますが、観光のターゲットを欧州にむけるのは、大変良いアイデアだと思います。

●榎本 私が海外からのお客さまを出羽三山にお連れした際にも、興味を最もめられるのは欧州の方々です。2019年のラグビーW杯、2020年のオリンピック・パラリンピックを考えたときに、インバウンドのお客さまのターゲットをどこにするかとなると、欧州が極めて重要になると考えています。

ミラノ万博で、先ほど申し上げたハンガリーの方以



出羽三山の山岳信仰とともに発展した精進料理
(写真提供：鶴岡市役所)

外に巫女に扮したもう1人は当市の職員で、クレアバリ（自治体国際化協会パリ事務所）に出勤中ですが、私としては欧州を観光の重要なターゲットと考えてのことです。

●**町田** 庄内・鶴岡の精神文化は世界に誇れると思います。大いに期待しています。ところで、観光においては「広域連携」が大切といわれていますが、連携についてはいかがお考えでしょうか。

●**榎本** 庄内が一つとなって連携することはもちろんですが、羽越本線沿いの新潟、新発田、胎内、村上、酒田他の市町村と当市で「日本海食のゴールデンルート」という観光圏をつくっています。2019年、2020年には首都圏の宿泊費が高騰することが予想されますので、交通費込みでも当地に滞在の方が安上がりになると思います。旅行会社からもいろいろとアイデアをいただいています。

一方で、旅行会社からは観光インフラ、例えばWi-Fi環境や観光案内などの整備、さらに当地は観光地を巡る二次交通機関が特に貧弱なので対応してほしいとの要望を受けています。今後、しっかり取り組まなくてはいけない点だと思います。

また、ミラノでも感じたことですが、海外からのお客様をきちんと案内するためには、日本の歴史・文化がしっかり頭に入っていないといけないということです。そのためには、単に語学力を高めるだけではなく、地元の観光資源とか歴史・文化をしっかり語れる人材を育成することが必要で、東北公益文科大学などに期待するところが大です。

地方創生はみんなの知恵を集めて

●**町田** 地方に必要な人材の育成に大学が果たす役割というお話がありましたが、地方創生は行政だけでも

だめでしょうし、もちろん大学だけでもだめです。産官学に加え、金融機関、労働界、言論界をまきこんで、それぞれが得意分野で協力し力をあわせていくことが非常に大切だと考えます。今回の地方創生で成果をあげられるかどうかは、この協力関係を地域課題にうまく収れんさせられるかにかかっていると思います。

金融機関も、これまでのように短期のリスクをとるだけではなく、長期のリスクもとるように変わらないといけないと思います。特に公共インフラが更新期に入っており、そのためには地域の金融機関が資金面でお手伝いすることが不可避ではないかと考えています。

●**榎本** 今回の当市の創生総合戦略は、金融機関をはじめ各界の方々から意見を頂戴し作りあげました。当市としては「まち・ひと・しごと創生」には従来から取り組んでいますので、ご意見をいただきながら、既存の施策を中心に見直したということです。例えば、街づくりについては、商工会議所に移転してもらい、いろいろご批判、ご意見をいただきましたが、その跡地を含めた現在地に文化会館を改築することにしました。荘内銀行さんは都市計画に沿って本店を改築されとのことで、街の中心エリアとしての内川周辺が整ってきました。観光客を呼び寄せる大きな力をいただいたと思います。

●**町田** 街づくりといえば、荘内銀行もお手伝いしている「鶴岡まちなかキネマ」に関しては、どのようにお考えでしょうか。

●**榎本** 私も時折映画を見に行きますが、「まちキネ」は市街地活性化の成功事例として国からも評価されています。一方で市民にはあそこに映画館があるということがなかなか周知されていないのが現状ではないでしょうか。「まちキネ」を一つの核として、人の流れをどうつくりだすのか、今後とも荘内銀行さんと一緒に考えていかなくてはと思っています。「食文化創造都市鶴岡」も海外を含め評価は高いと思いますが、地域の方が必ずしも知らないということがあります。

●**町田** 地域の方が地域のことを知らないということは地方創生のうえでは大きな問題ですし、地元の方が地元の問題を、もう少し真剣に考えることが必要という思いを強くしています。

話は変わりますが、当市には山形大学農学部、東北公益文科大学大学院、鶴岡工業高等専門学校、そして慶応義塾大学先端生命科学研究所（先端研）がありますが、これらの高等教育・研究機関との連携はいかがですか。特に先端研の周辺地域の開発・発展には期待するところ大ですが、なかなか難しい問題もありご苦

労があるのではと思います。

●**榎本** 先端研は設立から15年経ちました。先行的に財政支援をしてきましたが、それが回収されているかといえばまだまだです。しかし、単に金銭面だけでは評価できないこともあります。先端研の若い世代がベンチャー企業を立ち上げていますが、市の課題である若者の流出に歯止めをかけるという意味で誘致した成果の一つになっていると思います。“唾液による膵臓がんの検査”など芽がでてきていることはいいことだと思います。鶴岡高専でも刺激を受けてベンチャー企業を立ち上げようという動きになっています。

山形大農学部には在来野菜栽培で尽力いただきました。今後、プロの農業経営者となる人材を育成していただければと思います。東北公益文科大学大学院では社会人向けの講座で地域振興、まちづくりにいい影響を与えてくれることを期待しています。

アクティブシニアに活躍の場を

●**町田** 地方の定住人口をふやすということで、日本版CCRC（生涯活躍のまち）が提唱されています。アクティブシニア（活力ある高齢者）に地方に戻ってきてもらい、活躍してもらおうということですが、当地は大学もあり、また、文化の蓄積もあることから、CCRCにふさわしい地域だと思います。さまざまなバックグラウンドを持つ人が入ってくれば、地域を変えるエネルギーになると思いますが、どのようにお考えでしょうか。

●**榎本** CCRCに関しては非常に関心があり、担当部署にいろいろ調査、検討をさせています。私も首都圏に行った折、同級生などに10年くらい故郷に戻って地域のために働いてくれないかという話をしています。問題としては、多数の方を一度に受け入れると、その方々が例えば10年後に後期高齢者となると医療費、介護費の財政負担が一挙に増えるということがあり、そのあたりの工夫が必要です。いずれにせよ、目的意識を持った方に来てもらいたいと考えています。年間のうち数カ月こちらで活躍していただき、残りの期間は首都圏なりで鶴岡のために力を貸していただくようなことも考えられると思います。

●**町田** 大都会の企業の経営者、管理職で組織を動かしてきた人の経験は地方で十分に活用できると思います。先ほど農業経営のプロが必要というお話がありましたが、組織を動かした経験のある人は、TPPに対応しなくてはならないこれからの農業に必須のマーケ



ミラノ万博でも“ポーノ”（おいしい）と好評だった特産のただちゃ豆（写真提供：鶴岡市役所）

ティングとマネジメントに役に立つと考えます。

私どもも秋田の北都銀行を中心に、活力ある高齢者が地域のために活躍してもらう日本版CCRCを検討させています。

地域住民の参加が大切

●**町田** 地方の衰退は国の責任も大きいわけですが、今回の地方創生戦略においては、地方自身が自立して地方創生にあたらなくてはならないということが明確になっています。

●**榎本** その通りです。住んでいる人たちが地域をどうしようかと考え、一生懸命に取り組んでいるところは生き残れるかも知れませんが、行政が全部手助けすることはできませんよということです。例えば、当市ではパートナーズ制度といって地域の公園の維持管理を住民の方をお願いしています。資材費などは市で負担しますが、清掃などは住民に汗をかいていただくということです。

●**町田** そのような取り組みを通じて、住民が行政あるいは政治に参画しなければいけないという意識が強まれば、本当の地方自治が育つような気がします。

●**榎本** 今の時代は、行政も各界のいろいろなノウハウ、人脈をお持ちの方の知恵をお借りするのが一番だと思います。行政にもの申すというかたちではなく、私だったらこう考えるとか、こういう人を紹介するからとか、幅広くおっしゃっていただけるのは大変ありがたいことだと思います。

●**町田** そういうところも市長のお人柄だと思います。鶴岡市の地方創生戦略は、民間の感覚を大切にされることで心強く感じました。本日は、いろいろと貴重なお話を伺うことができ大変ありがとうございました。